

12.精神療法ストレスケアセンター関連

臨床評価指標項目	2017(平成 29)年度	2018(平成 30)年度	2019(平成 31/令和元)年度
人格検査合計	150	321	360
知能検査合計	63	186	143
神経心理学検査(STM-COMET 他)合計	236	293	255

解説

人格検査合計

神経精神科では、状態像の把握、鑑別診断、性格傾向の理解の一助として質問紙法や投影法といった種々の人格検査を複数組合せ、患者さんについての多面的・総合的な心理アセスメントを行っています。2017年9月神経精神科に児童思春期専門外来が開設され、徐々にその受診者が増加すると共に、児童思春期の変化しやすい難しい状態像の心理アセスメントに際し、人格検査の活用される機会が増えています。

知能検査合計

知能検査には、知的能力水準の把握だけではなく、個人内の能力的偏りの有無、能力のバランスを把握する為の検査などが含まれます。近年は、ADHD^{*1}やASD^{*2}といった発達障害の診断補助として、児童思春期外来を受診する多くの患者さんに、ウェクスラー知能検査(WAIS・WISC)^{*3}が施行されています。

神経心理学検査(STM-COMET 他)合計

神経心理学検査には、記憶障害、注意障害、構成障害や実行機能障害を評価する検査などが含まれます。その中でも、STM-COMETとは、聖マリアンナ医科大学神経精神科が1999年にアルツハイマー型認知症(以下:AD)の早期診断補助を目的に開発したコンピューター化記憶機能検査です。ADの記憶障害の特徴である近時記憶障害に焦点を当て、言語記憶に特化した課題設定で、代表的な認知症スクリーニング検査である長谷川式簡易知能評価スケールでは捉えきれないより初期段階のADの鑑別に役立ちます。検査項目の改訂により、検査時間が15分に短縮され高齢の被検査者への負担も少なくなり、神経精神科外来・病棟で活用されています。2018年度からは高齢者の運転免許更新に関わる受診も増えており、その際にも活用されています。

^{*1}ADHD(注意欠如多動性障害)

多動性や衝動性、また不注意を症状の特徴とする神経発達症もしくは行動障害です。

^{*2}ASD(自閉症スペクトラム障害)

コミュニケーションや言語に関する症状があり、常同行動を示すといった様々な状態を連続体として包含する診断名です。

^{*3}ウェクスラー知能検査(WAIS・WISC)

全検査IQ、言語性IQと動作性IQという2つの側面から詳細に検討することで個人の得意、不得意の測定を行います。WAISは成人用、WISCは児童用に分けられます。